

漢字かな交じり文を書く(9)

締切り 九月二十五日(必着)

波遊びは終わったよ
 恋のまねごと
 もう夏は逝ってよう
 まだ忘れないのなら
 まだ別れられないのなら
 おまえの心の帆は
 そっと隠れておこう
 陽ざーに晒された島に
 潮風に揺れる魚影に
 さあ波遊びは終り
 沖には白い波
 水平線には秋

奥村憲照先生書

◎書道のジャンルには、大別して「漢字」「かな」「漢字かな交じり文」の三つがあります。

◎「漢字かな交じり文」は、実用書としてはあたり前のことですが、芸術書としては比較的新しい分野で、近代詩文書とか調和体と呼ばれています。団体によっては、新和様とか新書芸という呼称もあります。

◎今月の作品は、オーソドックスな書きぶりですが、憲照先生の温潤な書風は、過ぎて行く夏の寂寥感を表現しています。皆さんもそれぞれに工夫してみてください。

◎誰にでも読めて、言葉の感動をストレートに表現できる「漢字かな交じり文」の世界をお楽しみ下さい。

※出典 春日井建詩 「逝く夏に」

※落款(氏名)も作品の一部として、作品の最後に書き入れて下さい。(雅印のみ可)

□作品の出し方

▼硬筆部 B5判(二五七mm×一八二mm)以下の紙に書いて下さい。用具は自由です。(黒色に限る)

▼毛筆部 半紙に書いて下さい。筆ペンも可です。

▼出品制限の対象とはしませんが、出品は硬・毛のどちらか一方に限ります。

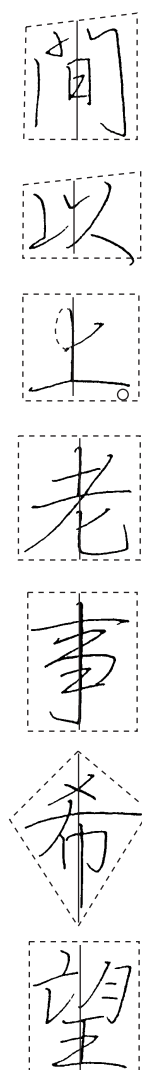
▼事務処理上、支部略称・氏名・会員番号・硬筆規定の成績(毛筆の場合は毛筆漢字の成績)を、作品余白にお書き下さい。

▼優秀作品は、写真版として成績表の後ろに掲載しますが、成績表での順位発表はしません。

準初段から六段まで

新入から1級まで

〔解説〕



▶教範・書範は右課題を「楷書」で、師範は「行草または草書」で出書して下さい。
行書は線に丸みを出しやわらかく、字形はふところ広くゆとりのあるように書く。

人間である以上
老年に至るまで
万事を希望せよ

おか だ りゅう ほう 書
岡 田 龍 芳 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

〔解説〕



右あがりに

のびよく

長く



おお たに せい じょう 書
大 谷 清 城 書

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

★分別：（書体＝楷書）

黒田如水（一五四六～一六〇四）

安土桃山時代の武将 本名孝高

分別とは思慮・判断のことですが、それが過ぎると合戦で勝つことはできません。事業にしろ結婚にしろ、あまり考え過ぎると何も実行できなくなってしまう。「熟慮し断行す」という言葉があるように、両者をバランスよく保つことが成功の鍵です。

◆10月課題予告（行書）

根深ければ

枝葉は枯れず

日蓮

★人間：（書体＝行書）

メナンドロス（前四三頃～前二三頃）

古代ギリシャの喜劇詩人

古代ギリシャ人は、神と人間の違いを「未来を知ることができるのは神だけ。人間は一瞬先のこともわからない」と考えていました。つまり先のことがわからないからこそ希望が出てくるというわけです。人間ならば一生希望をもって生きようと励ましています。

◆10月課題予告（楷書）

平らな道でも

蹟くことがある

人間の運命も同じ

▼教範・書範＝行草または草書

▼師範＝行書

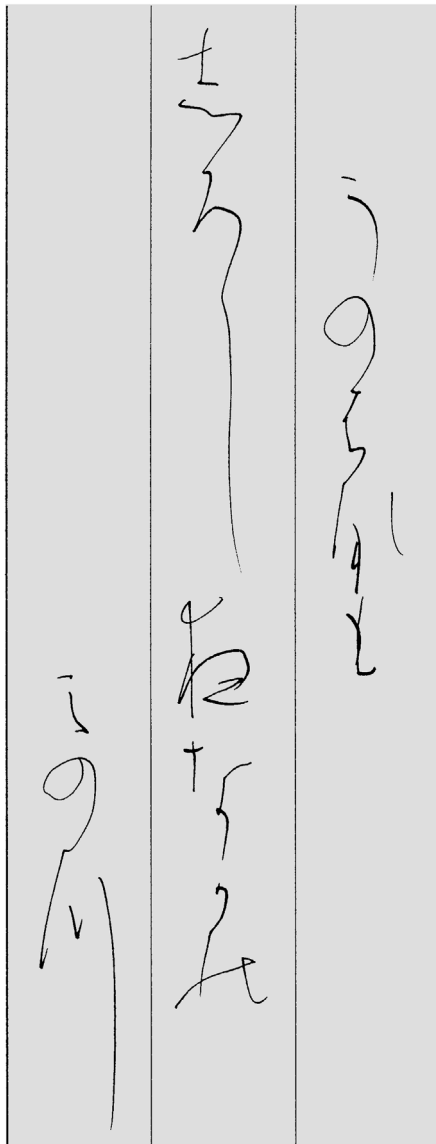
一般部かな課題

締切り 9月25日(必着)

準初段から六段まで

新入から1級まで

うの花も白し夜半の天の川

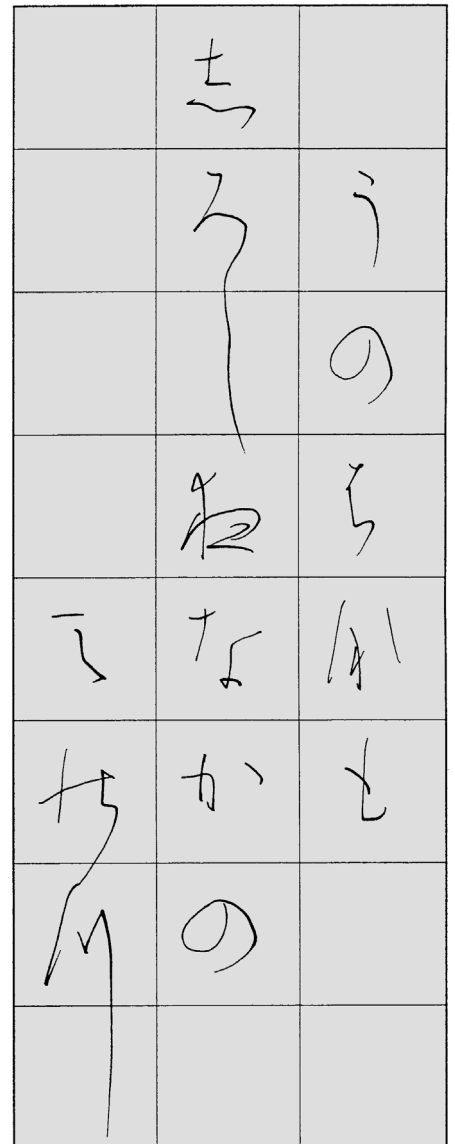


こ だま ち せん 先生書
児 玉 知 泉

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会段位用紙

うの花も白し夜半の天の川



こ だま ち せん 先生書
児 玉 知 泉

▷用具＝自由（黒色に限る）

▷用紙＝本会級位用紙

◆10月課題予告
紫陽花や青にきまりし秋の雨

（正岡子規）

角川携帯かな字典より

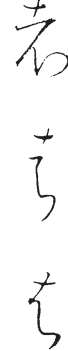
能の



那な



者は



〔解説〕

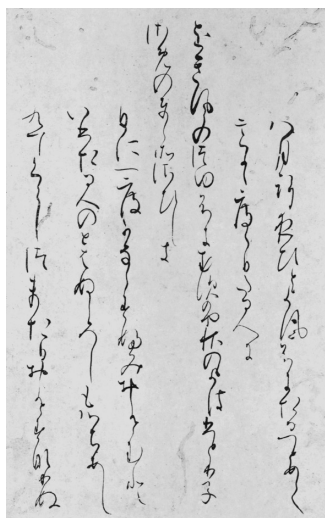
〔句意〕 卯の花が白く咲いている。その上に夜ふけの天川が白く澄んで流れている。地と天の白の呼応である。

うの花も白し夜半の天の川

（池西言水）

〔古筆参考〕

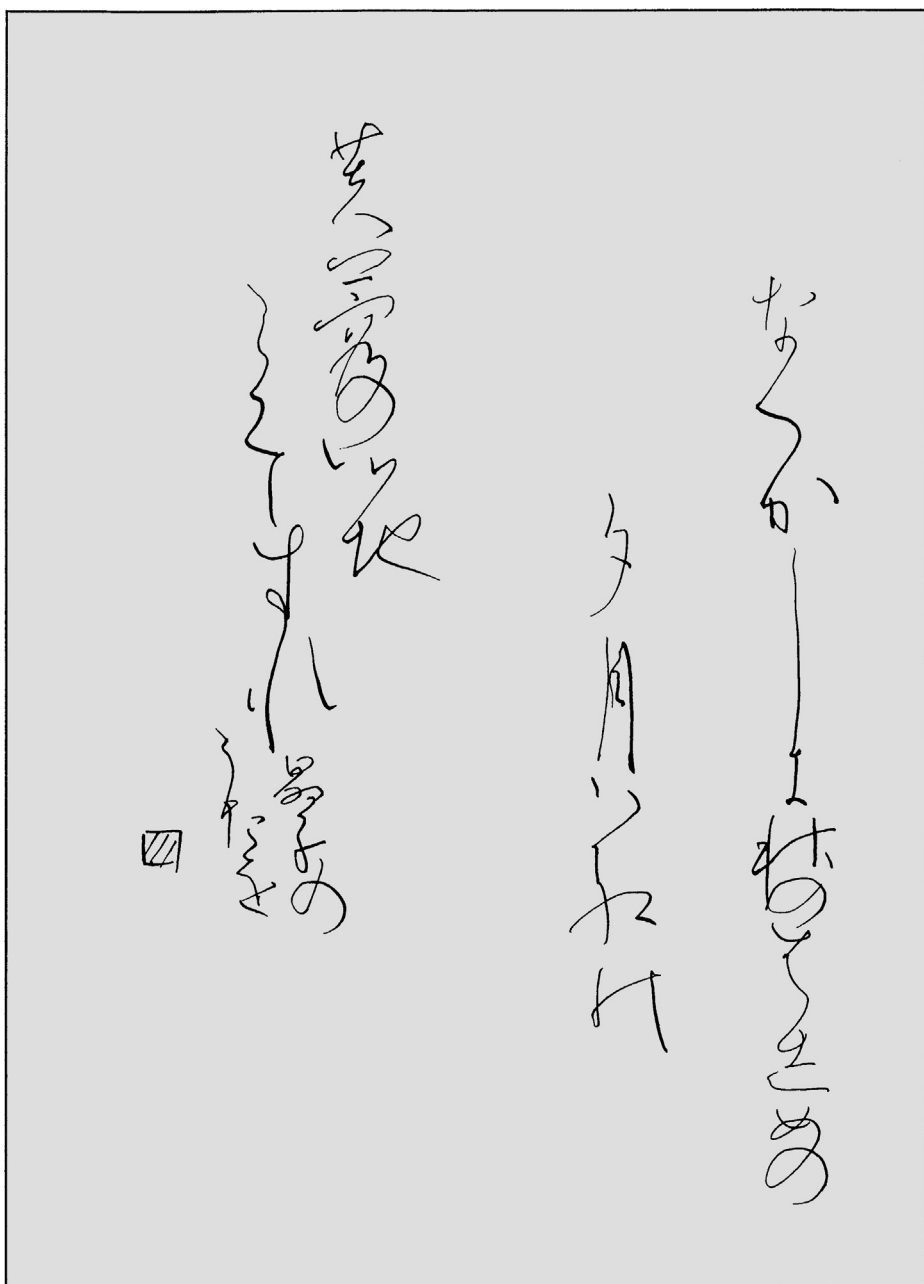
いずみ しきぶ ぞくしゅうぎれ
和泉式部続集切



八月許夜ひとよ風ふきたるつとめて
いかにとひたる人に
をき風のつゆふきむすぶ秋のよはひとりね
ざめのところさびしき
日に一度かならずふみおこせむと
いひたる人とはぬころしも心ちあし
くてくらしつまた日おこせずなりぬ

締切り 九月二十五日（必着）

築瀬舟香書

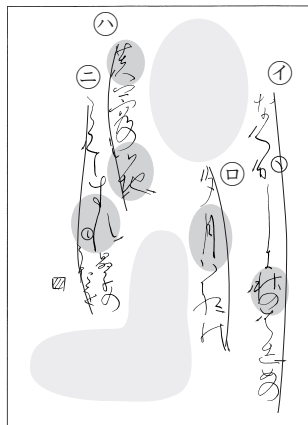


なつかしき秋の初めの夕月は紅の
芙蓉のこころこそすれ
晶子のうたを

〔歌意〕心引かれる秋の初めの夕月は、
まるで淡い紅の芙蓉のような感じがし
ます。

〔出典〕名歌即訳 与謝野晶子

〔解説〕



- ①と②、①と③、②と④、③と⑤、
それぞれ呼応。
- 一行の密の部分、密の動きに注意。
- 大きな間大切に。
- ・・・ の方向に注意。

「和泉式部続集切」の中の疎密

一月号から載せてきた和泉式部続集切の古筆を見て行の中の疎密を感じていただけましたでしょうか。理論より感じる事が大切かと思えます。この疎密は作品の中に景色を作る大切な技なのです。今月の「秋の者」と「蓉の心」を連綿線を短くして密の部分を作りしました。

◆10月課題予告

山の夜や星にまじりてあるごとく
高き方にて鳴けるこほろぎ

（与謝野晶子）

締切り 9月25日(必着)

同級生四人の一泊旅行の件ですが、建設中のスカイツリーを見たあと隅田川をクルージングし、浅草寺拝観の格安ツアーを見つけました。ホテルからの東京の夜景も最高のようです。是非行きませんか。

◎手本は水性ボールペン使用

同級生四人の一泊旅行の件ですが、建設中のスカイツリーを見たあと隅田川をクルージングし、浅草寺拝観の格安ツアーを見つけました。ホテルからの東京の夜景も最高のようです。是非行きませんか。

作品の出し方

- 新人から師範まで、どなたでも出書できます。成績は評価により毎月変わります。
- 用紙Ⅱはがき課題ははがき用紙、横書き課題は一般部段位用紙を横に使用。
- 用具Ⅱはがき、横書き課題ともに自由。(黒色に限る)
- 両課題とも、書体変換は自由です。

横 書 き 課 題

おか しま けい せん
岡 嶋 桂 川 書

画家ゴヤは、鮮烈な色彩と清新なタッチで印象派の先駆をなした。

香川県高松市 氏 名

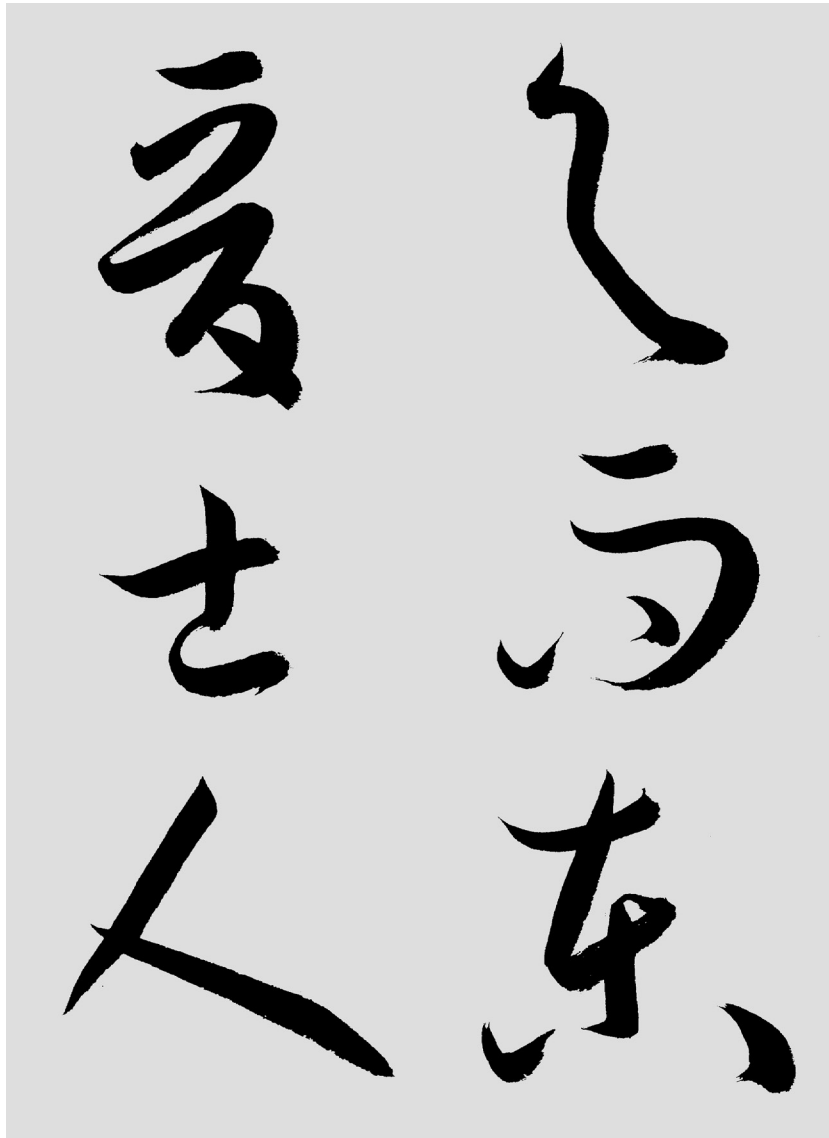
※手本は、つけペン使用。 ★三行目は、指定の地名と氏名を書いて下さい。

一般部毛筆漢字課題

締切り 9月25日（必着）

與
而
東
晉
士
人

し
而
東
晉
士
人



〔出典〕書譜（687）〔筆者〕孫過庭（649?～688?）

〔読み〕而して、東晋の士人は、

準初段から師範まで

奥
村
暢
之
臨



〔読み〕^{へきらく}碧^{こうんつ}落に孤雲盡きる。

〔大意〕高く澄みわたった大空には一片のちぎれ雲も見えない。

新入から1級まで（楷書）

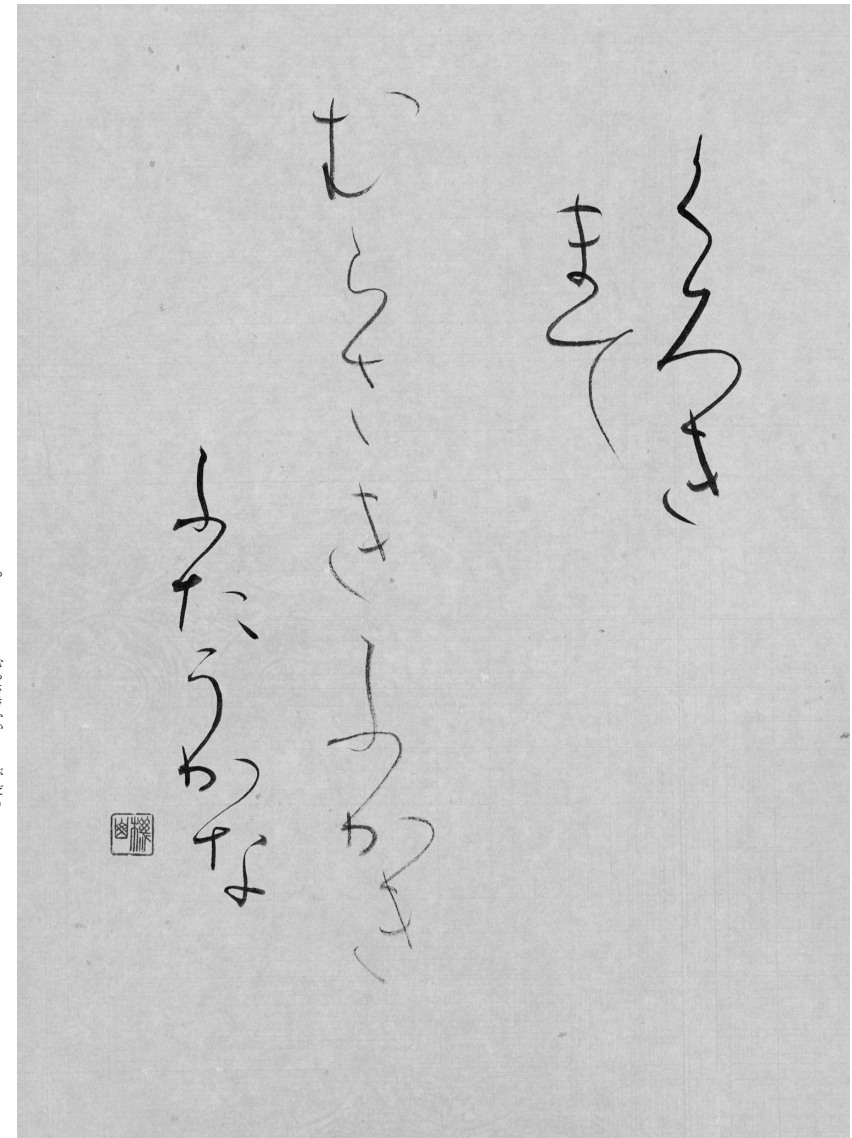
澤
静
雨
書

一般部毛筆かな課題

締切り 9月25日（必着）

新入から1級まで

浅井機山先生書

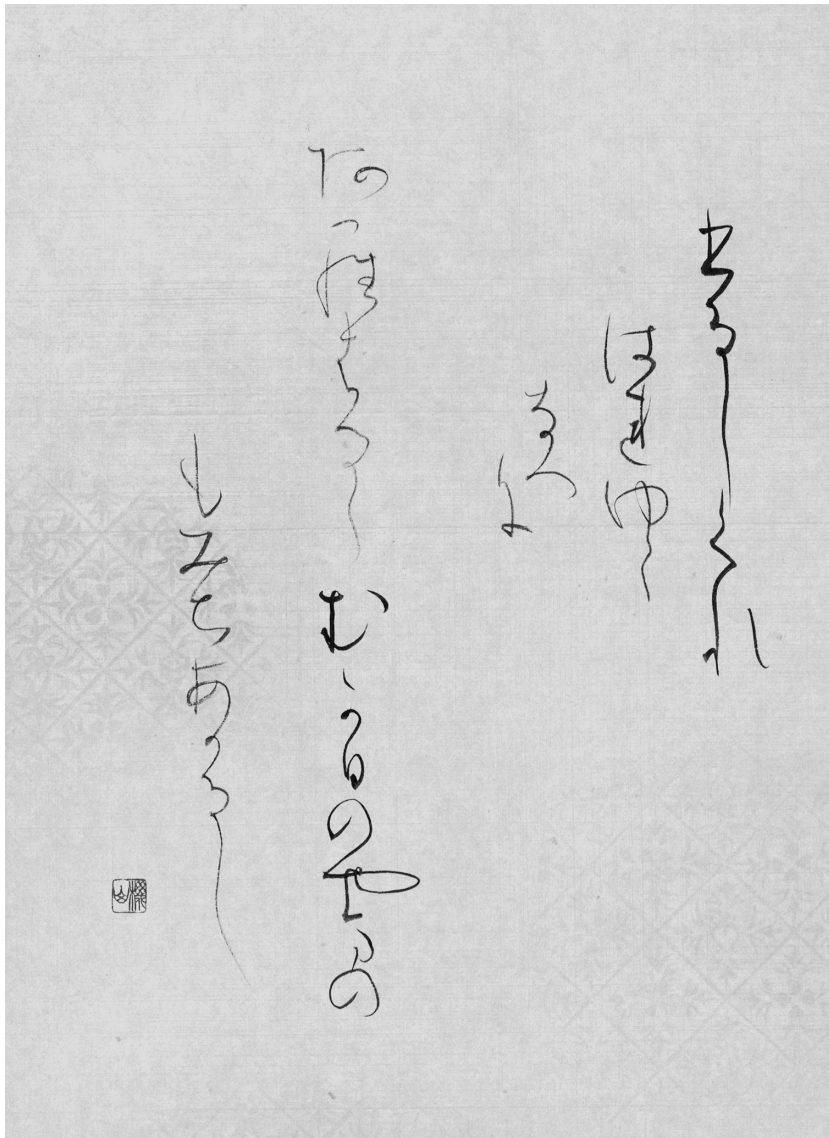


〔出典〕正岡子規

〔句意〕葡萄の色の深さを詠んだ句。暗紫色のぶどうの房がしっとりと置かれているのである。部屋の静寂さもうかがわれる。

準初段から師範まで

■両課題とも文字の変換、ちらし方は自由です。



〔出典〕松村英一

〔歌意〕昼間の時雨が晴れゆくにつれて現れる、向かいの山の紅葉の、ああなんとあかるいことよ。

悲しくれ連奈尔阿羅者
むひる時雨はれゆくなべに現はるる
向ひの山の紅葉あかるし

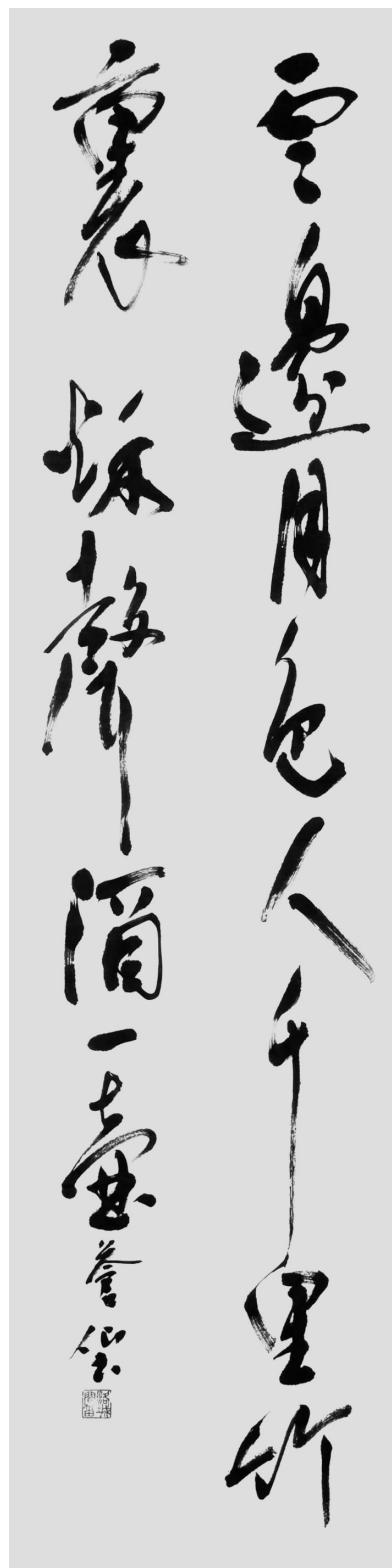
一般部毛筆細字課題

一般部毛筆条幅課題

締切り 九月二十五日（必着）

半切（一三六cm×三五cm）

荻田蒼仙書



雲邊月色人千里
竹裏秋聲酒一壺

陳普

〔大意〕雲上高くに冴える月は一つでも人は千里に別れている。竹林の中で聞く秋の声を酒壺に対して聞き友をなつかしむ。

初出品の方へ

支部名・会員番号・姓名・毛筆漢字成績を、作品左下に必ずお書き下さい。

子供の頃に見た高原の雲の美しさ

が妙に懐かく信州を訪れた

昔と同じ千変万化の雲の情景に

なぜか目頭が熱くなりました

湯川由美

書 兆 春 宮 大

半紙（334mm×240mm）

〔解説〕蕾ばかりや反対に開きつばなしの花ばかりでもよくない。やはり適当に混ざっているのがよろしいのではないでしょうか。そんな事を考えながら、個々の墨量や太細を考えて書きましょう。

※落款（名前）は本文と同じ筆で、調子を合わせて書くことが大切です。

子供の頃に見た高原の雲の美しさが妙に懐かく信州を訪れました
昔と同じ千変万化の雲の情景に
なぜか目頭が熱くなりました

（ご自分の氏名）

・印で墨つぎしました。

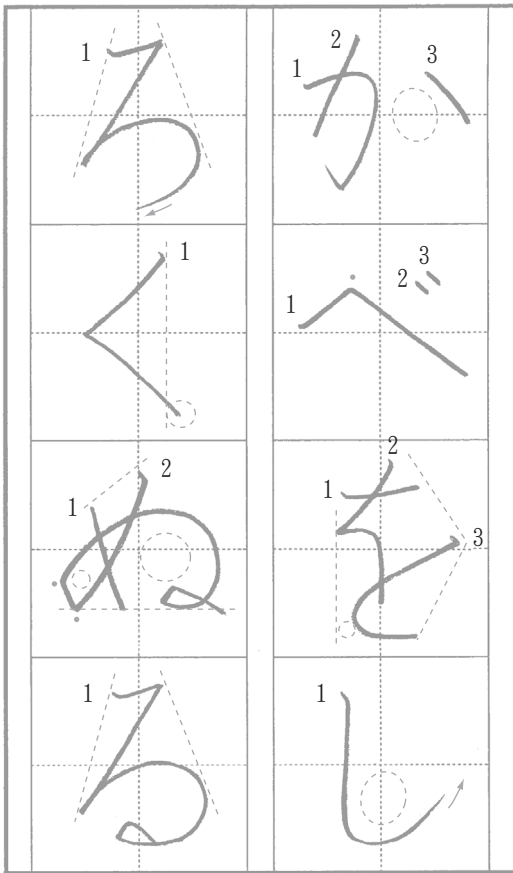
〔条幅・細字作品の出し方〕

■ 新入から師範まで、どなたでも出書できます。

■ 成績（天位〜5等）は、評価により毎月変わります。

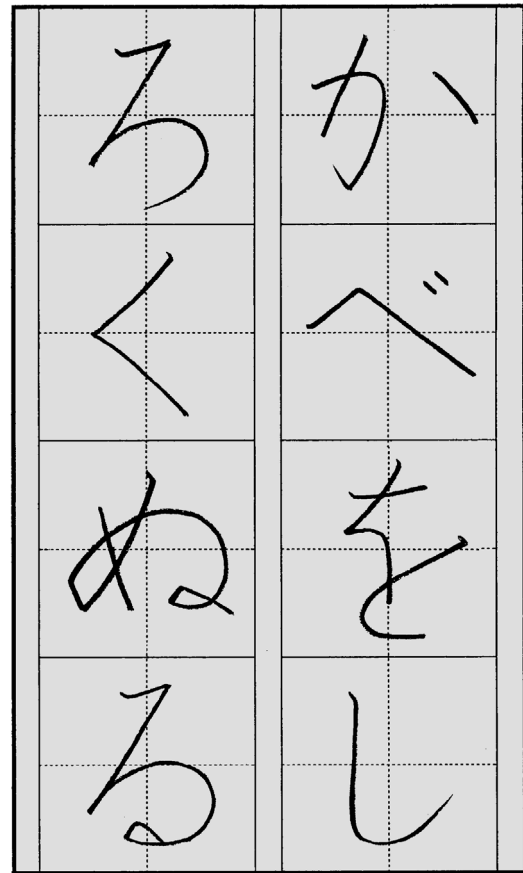
■ 書体変換、変体仮名の交換は自由です。

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



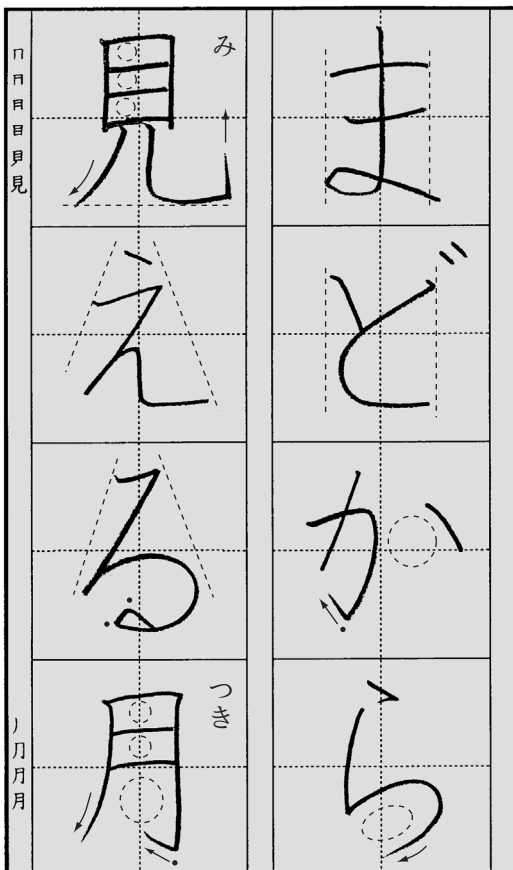
◆ひらがなトレーニング(なぞってかいてみよう)

★新入は、年少・年中・年長の別を記入して下さい。
★幼年は、全員8マス用紙で出書して下さい。



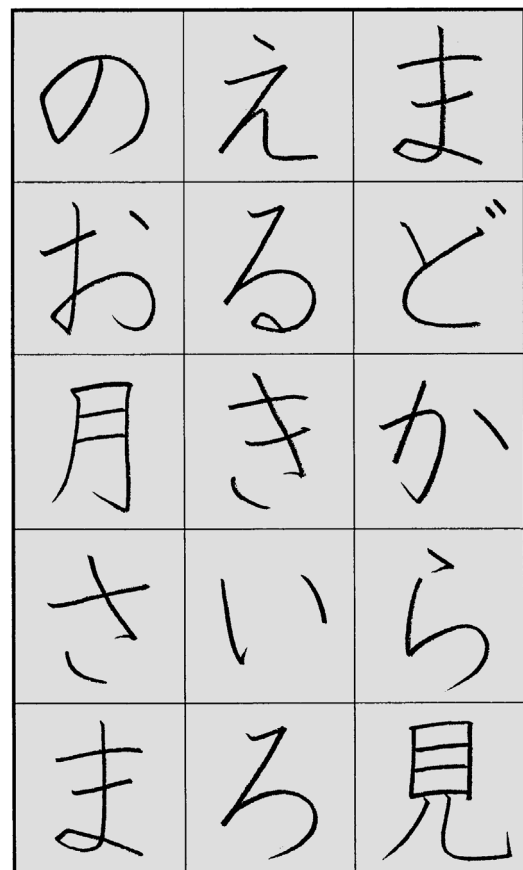
よう
年

幼年～小三年
三宅容玉書



新入～1級

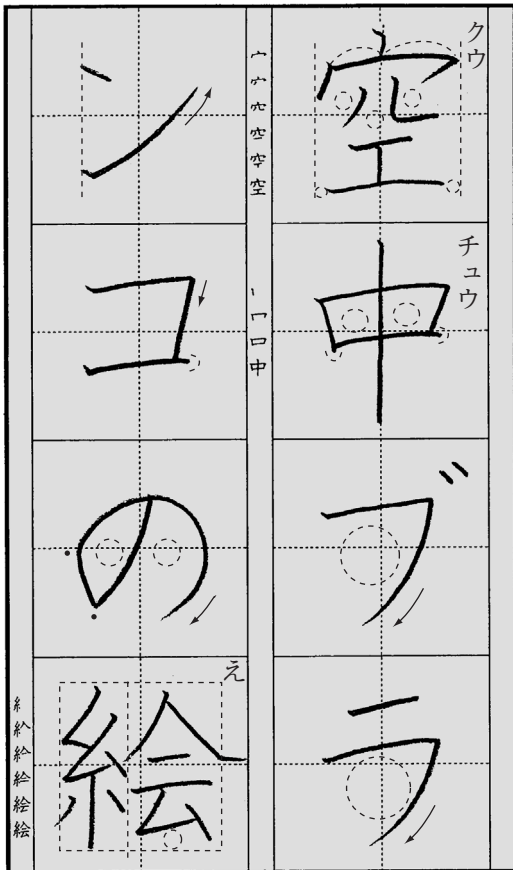
(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。



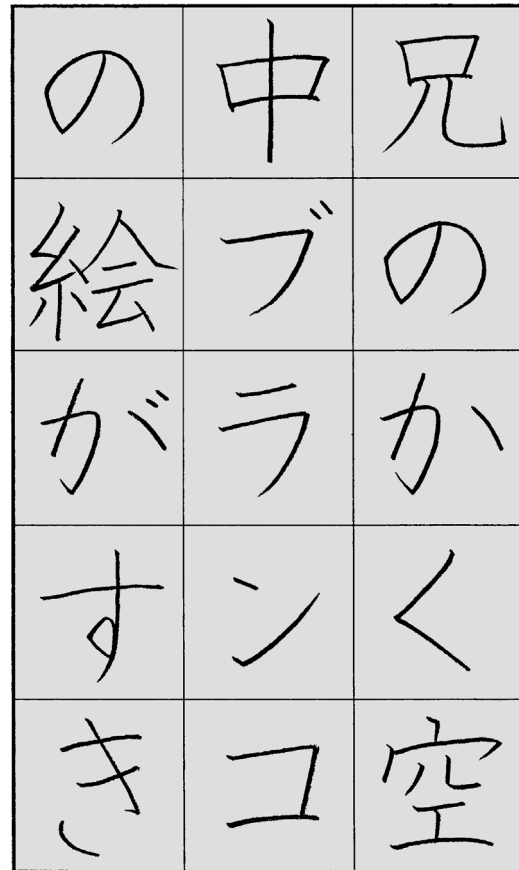
小
一
年

準初段以上

〈ようぐ〉自由(黒色にかざる)



新入1級



小二年

準初段以上



新入1級

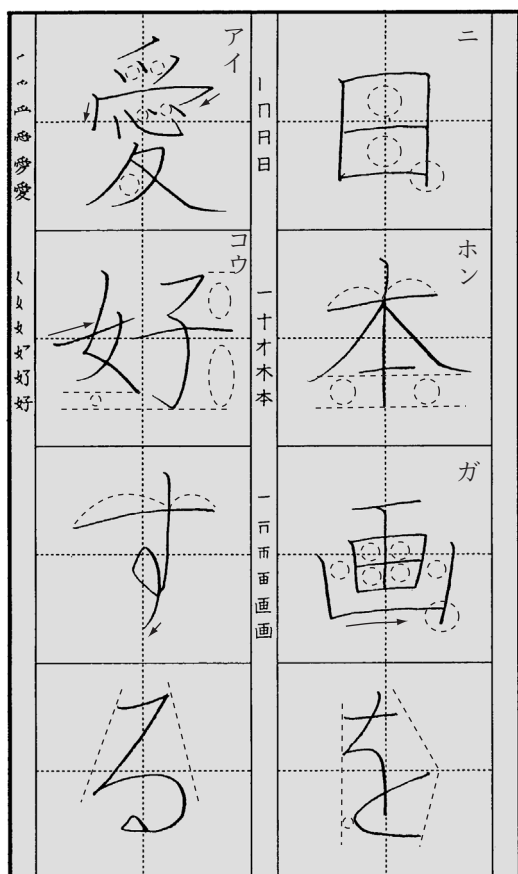


小三年

準初段以上

(注) えんぴつ書きでは、消しゴムを使ってはいけません。

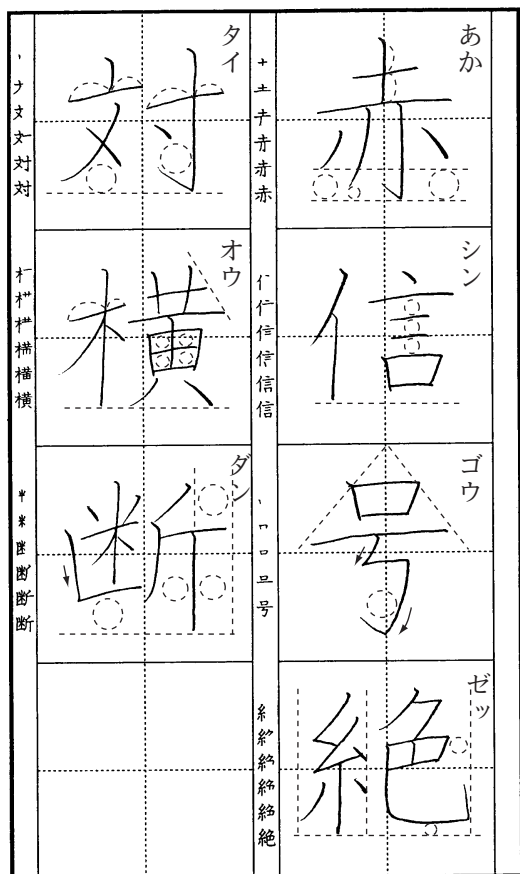
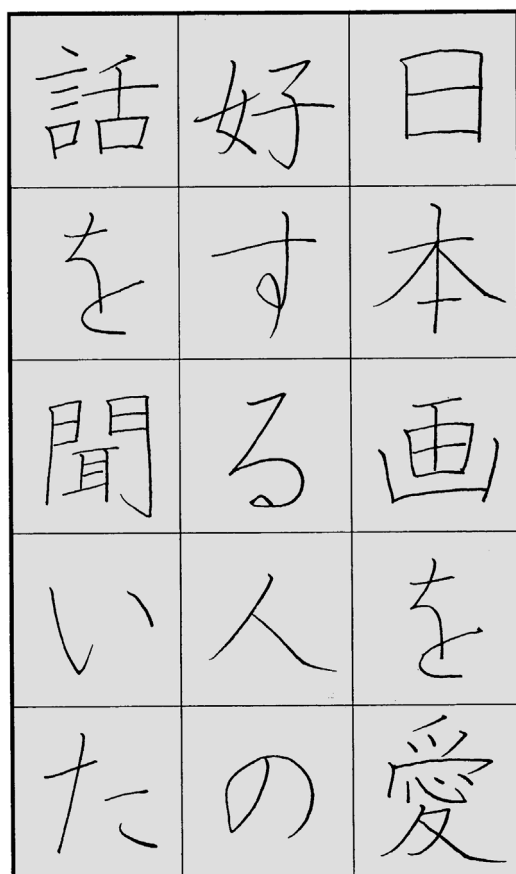
〈用具〉自由(黒色に限る)



新入1級

小四年

準初段以上

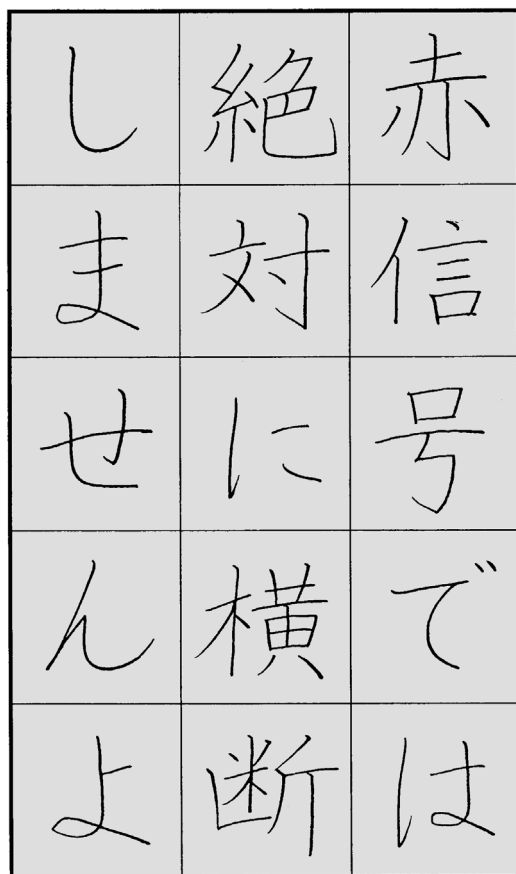


解説(よく見て習いましょう)

小五年

(全員)

小五以上は、全員15マス用紙で出書して下さい。



小四以上 須田一葉書

〈ようぐ〉自由(黒色に限る)

カ	カ
化	価
コウ	チ
後	値
セイ	デン
世	伝
の(る)	トウ
残	統

解説(よく見て習いましょう)

小六年

後	伝	価
世	統	値
に	文	の
残	化	あ
す	を	る

(全員)

◎お手本は、つけペンで書きました。

事	去	図
を	の	書
調	新	館
べ	聞	で
た	記	過

中二・三年 (行書)

※心地||単語としてこのように読みます。

中一年 (行書)

節	心	初
に	地	秋
な	よ	の
っ	い	風
た	季	が

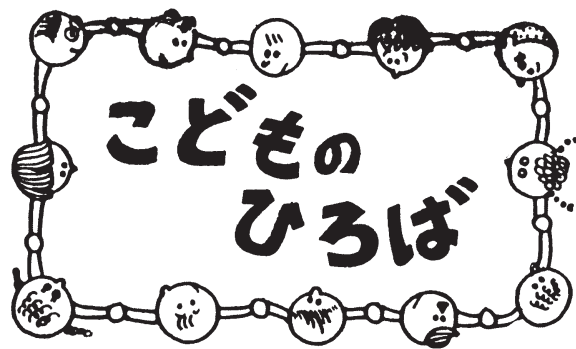
▼小三年以下の課題

はっ 服 部 祐 光 書

リ	走 ^{はし}	ど	せ	森 ^{もり}
ス	り	ん	っ	の
の	回 ^{まわ}	ぐ	せ	中 ^{なか}
親 ^{おや}	る	り	と	
子 ^こ		集 ^{あつ}		
		め		
		に		



◎お手本はえんぴつ使用



しめきり 9月25日(必着)

習っていない漢字は、
ひらがなで書いてもよろしい。

▼小四年以上の課題

やま 山 かど 門 せい 清 せん 扇 書

制 ^{せい}	標 ^{ひょう}	推 ^{すい}	秋 ^{あき}	地 ^ち
作 ^{さく}	語 ^ご	進 ^{しん}	の	域 ^{いき}
し	ポ	す	交 ^{こう}	ぐ
ま	ス	る	通 ^{つう}	る
す	タ	た	安 ^{あん}	み
	ー	め	全 ^{ぜん}	で
	を		を	



◎お手本はつけペン使用

◇作品の出し方

- 一、選定用紙（五行・四行）に書いて下さい。
- 一、作品には、支部名（校名）学年、氏名を書き入れて下さい。
- 一、筆記用具は自由です。（黒色に限る）
- 一、四行用紙を使用してもしよろしい。その場合は、文章を適当に短くして下さい。
- 一、成績は評価により毎月変わります。
- 一、支部会員は、出品ラベルを必ず貼って下さい。貼っていない方は新入とみなします。



小二
空
中

幼年
〜
小二年

たま
樹
しょう
小
か
華
書

さん
る

中心
空
中
中心
る
ま
と
長めに

小二
ま
と

赤信
号
小五

人魚

日画
本
小四

小三
小五

水野香竹書

小六・中二・三年

奥村暢之書

中二
新聞記事

小六
文化伝

風 伝
聞 統
事 初

1 2 3
やや開く
最後に書く
横画の間つめて

中一
初の秋風